

| | | | | | | | | |
|--|--|------|------|--|-----------|-------------|-------|------------|
| 授業科目 | 西洋の歴史と文化 | | | | 単位 | 2 | | |
| 履修 | 選択 | 関連資格 | | | ナンバリング | NU10107J | | |
| 開講年次 | 4年 | 開講時期 | 後期 | 該当DP | DP1-1 | | | |
| 担当教員 | 山本 達夫 | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>私たちは他者との比較によって自己を客観的に認識する。この講義では、異文化社会としてのヨーロッパ社会(古代末期から近現代)を概観し、異なる文化や思想の背景にいかなる歴史的経緯があり、それが現代にどのように影響を及ぼしているかを考察する。その上で、現代に生きる私たちの立ち位置を考えてみたい。ヨーロッパ史研究における主要なテーマの考察を通して「現在の歴史性」を認識し、現在の諸問題を歴史的に考察する素地を養うことが講義の柱である。また、ヨーロッパ文化・社会が生み出したユダヤ人差別の問題を具体例として、差別が差別される側ではなく、差別する側の問題であることも確認したい。</p> | | | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ヨーロッパ史の概要を、ヨーロッパ文化の背景として説明できる。(知識・理解) 2. 現代の歴史性を理解し、さまざまな文化を相対的に評価できる。(態度・志向性) 3. 偏った情報に依拠することなく、種々の情報を客観的に分析できる。(態度・志向性) | | | | | | | |
| 達成度評価 | | | | | | | | |
| 評価と評価割合／ 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 発表(口頭、プレゼンテーション) | レポート外の提出物 | その他 | 合計 | 備考 |
| 総合評価割合 | 90 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 100 | |
| 知識・理解 (DP1-1) | (90) | (0) | | | (10) | | (100) | |
| 知識・理解 (DP1-2) | | | | | | | | |
| 知識・理解 (DP1-3) | | | | | | | | |
| 知識・理解 (DP1-4) | | | | | | | | |
| 思考・判断 (DP2-1) | | | | | | | | |
| 思考・判断 (DP2-2) | | | | | | | | |
| 関心・意欲 (DP3-1) | | | | | | | | |
| 関心・意欲 (DP3-2) | | | | | | | | |
| 態度 (DP4-1) | | | | | | | | |
| 態度 (DP4-2) | | | | | | | | |
| 態度 (DP4-3) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-1) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-2) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-3) | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | |
| 理想的レベル | | | | 標準的なレベル | | | | |
| ヨーロッパ史の基本的な知識をよく理解し、ヨーロッパの現在の諸問題を歴史的に考察することができる。 テキストやプリントの内容について、人に正確に説明できる。 | | | | ヨーロッパ史の基本的な知識を理解している。 テキストやプリントの内容について、人に説明できる。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | | |
| 進行 | テーマ・講義内容 | | | 授業の運営方法 | | 学習課題(予習・復習) | | 予習・復習時間(分) |
| 1 | テーマ:ヨーロッパ文化と日本 日本においてヨーロッパ文化・歴史を研究する意味を考える。 | | | 講義 | | 復習:該当部分の復習 | | 45 |

| | | | | |
|----|---|------------|-----------------------------|-----|
| 2 | テーマ:ローマ帝国とゲルマン社会 ヨーロッパ史の源流であるローマ帝国とゲルマン社会の交流について解説する。 | 講義 | 復習:該当部分の復習 | 45 |
| 3 | テーマ:キリスト教とヨーロッパ キリスト教の成立とヨーロッパ社会・文化に与えた影響について解説する。 | 講義 | 復習:該当部分の復習 | 45 |
| 4 | テーマ:ヨーロッパ封建制度と農業革命 ヨーロッパ中世封建社会とその経済的基盤の形成について解説する。 | 講義 | 復習:該当部分の復習 | 45 |
| 5 | テーマ:中世ヨーロッパにおける聖権と俗権 キリスト教共同体の形成—教皇権と皇帝権の分立、イスラーム世界との差違について解説する。 | 講義 小テスト | 予習:小テストに向けた準備 復習:該当部分の復習 | 120 |
| 6 | テーマ:十字軍の背景と影響 十字軍運動の背景と、それがヨーロッパに与えた影響について解説する。 | 講義 | 復習:該当部分の復習 | 45 |
| 7 | テーマ:宗教改革とヨーロッパ カトリックの中世社会秩序の中から起こった改革運動の背景と影響について解説する。 | 講義 | 復習:該当部分の復習 | 45 |
| 8 | テーマ:地理上の発見 ポルトガル・スペインの海外進出の背景と、ヨーロッパ史に与えた影響について解説する。 | 講義 | 復習:該当部分の復習 | 45 |
| 9 | テーマ:近代世界システム ヨーロッパの海外進出による世界の一体化の背景とその影響について解説する。 | 講義 小テスト | 予習:小テストに向けた準備 復習:該当部分の復習 | 105 |
| 10 | テーマ:ヘゲモニー国家1 オランダのアジア進出の背景と影響、絶対主義、王権神授説について解説する。 | 講義 | 復習:当該部分の復習 | 45 |
| 11 | テーマ:ヘゲモニー国家2 イギリスの海外進出の背景とイギリス帝国の成立過程について解説する。 | 講義 | 復習:当該部分の復習 | 45 |
| 12 | テーマ:工業化とその影響1 イギリスにおける工業化の背景とその影響について解説する。 | 講義 | 復習:当該部分の復習 | 45 |
| 13 | テーマ:工業化とその影響2 工業化がイギリス社会に与えた影響と、覇権国家イギリス成立について解説する。 | 講義 小テスト | 予習:小テストに向けた準備 復習:該当部分の復習 | 105 |
| 14 | テーマ:世界の一体化と分裂 帝国主義時代における世界分割と南北問題の起源について解説する。 | 講義 | 復習:当該部分の復習 | 60 |
| 15 | テーマ:ヨーロッパ社会とユダヤ人 ユダヤ人迫害の歴史と、ユダヤ人問題の解決を模索したザメンホフの思想と行動について解説する。 | 講義・試験 | 復習:当該部分の復習 | 60 |
| 16 | | | | |
| 17 | | | | |
| 18 | | | | |
| 19 | | | | |
| 20 | | | | |
| 21 | | | | |
| 22 | | | | |

| | | | | |
|-----------------------|--|--|--|--|
| 23 | | | | |
| 24 | | | | |
| 25 | | | | |
| 26 | | | | |
| 27 | | | | |
| 28 | | | | |
| 29 | | | | |
| 30 | | | | |
| | | | | |
| 理解に必要な予備知識や技能 | 高校までの世界史・日本史の知識が役立ちますが、新しい内容もあるので、積極的に取り組んでください。 | | | |
| テキスト | 服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』(ミネルヴァ書房、2006) 小山哲・山垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史[近現代]』(ミネルヴァ書房、2011) | | | |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | プリントを毎回配布する。 参考図書は適宜紹介する。 | | | |
| 授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ | 歴史はたんなる暗記物ではありません。「歴史とは過去と現在との対話」といわれるように、本講義では過去と現在、ときには日本史の比較も交えながら過去と現在を考え、解釈します。ヨーロッパ史研究における重要なテーマの考察を通して「現在の歴史性」を認識し、現在の諸問題を歴史的に考察する素地を養います。その意味において、歴史とは未来への展望を開く学問でもあります。講義では、記述式のレジュメを使い、わかりやすく説明していきます。レジュメを見返しながら自分で過去に問いかけてみてください。ヨーロッパ史について新しいイメージ | | | |
| 達成度評価に関するコメント | 試験およびミニツツペーパーについては、授業中に指示する。 | | | |